

**東日本大震災関係写真パネル
いただきました**



東日本大震災を忘れないということで、国土交通省が作成した写真パネルを「稲むらの火の館」へ贈呈していただきました。

岩手県の陸前高田市へ東日本大震災を伝承していくための施設をつくるそうです。

その先進地視察として、陸前高田市、岩手県、国交省東北整備局の方々が、8月20日先進地視察として、当館にお見えになりました。

その際、東日本大震災を「忘れない!」という写真パネルを贈呈していただきました。

この写真は、国交省近畿整備局の森局長から、西岡町長に贈呈されたところです。

また、この贈呈式の取材のために、テレビ・ラジオ・新聞各社が来館され、出席者へのインタビュー等取材されていました。

この写真パネルは、「津波防災教育センター」3階に展示していますので、是非ご覧いただきますようご案内いたします。



<皆様からの声>

1、和歌山市内在住の女性から電話をいただきました。家から出てきた本に、濱口梧陵さんの名前とか出ているのですが、他はあまり読めないのですが。(話をしているうちに、かなり古い本のように。そして、濱口吉右衛門の弟とか書いている、とのこと。是非拝見したいと申し上げました。)翌日、さっそく送ってくれました。(漢文もあり、今四苦八苦しながら、読んでいます。)

2、東京都国分寺市にお住まいの方から、冊子が送られてきました。「関 寛齋」の映画のシナリオ検討稿というものでした。関寛齋と濱口梧陵の間柄は知る人ぞ知るところです。「関 寛齋」の映画ができれば、半分は梧陵さんとのことだと言っても過言ではないのです。検討稿ですので、あらずじのようなものですが、内容をチェックしてほしいとのこと。

3、(館内の投書箱に入っていました)とても楽しかったです。もう少し、2F, 3Fをあきないようにしてほしいと思います。
リニューアルOPEN 待ってます。
(今のところ、リニューアルの予定はありません)

<耐久大学切り絵専科展>

耐久大学切り絵専科の皆様への切り絵展は、来館者の皆様から好評のうちに終了いたしました。今後とも、定期的な展示をお願いします。ありがとうございました。

《皆様へのお願い》

皆様のお宅に、「稲むら」(ススキ)の写真はありませんか。単独でも、田んぼ風景にいくつか写っているもの、提供してください。昔の広の町の風景写真もお願いします。

安政元年海嘯の実況

濱口梧陵手記

八日、村民少しく危懼の度を減じ、避難所より自宅に帰り、災後の始末に著手遷都する者あり。然れども家屋の全きもの極めて稀にして、柱傾き壁落ち、家財は大半流水して殆んど己れの家たるを弁ずるに苦しめり。就中、小民に至りては住家の破損と共に、もとより多からざる家財農具を流失し、一朝にして挙家生計の道を失い、茫然として為す所を知らず、ここに漸く離散の念を懐くに至れり。

本日初めて村役員を召集し、旧僕某の家をもって仮役所に当て、日夜事務を執り訴えを聴き、人夫配布その他の指揮をなせり。然れども握飯は猶避難所において炊出し、余及び村吏と雖もこの握飯を得て僅かに腹を満たせる次第なりき。



余は流民救助として玄米二百俵を寄付する旨掲示し、以って有志に向かって先例を置けり。ここに於いて本村及び隣村湯浅の資産家続々米銭を寄附し来り、細民やや愁眉を開き得たり。本日に至り震動漸く軽微となり、海嘯再来もおそれも全く村民の脳裏を去りたるを以って、流遺の物品を拾集する者頓に増加し、自他の別なくこれを収得するがために、往々その間に不正の行わるるを察し、各所に吏員を派し、強浚弱も害なからん事を図る。然れども事情もとより平日と異なるものあるを以って、臨機の法を用い、煩を去り簡に就く、要は平常に帰するにありしなり。事の混雑はこれに止まらず、村民所持の米俵はもとより、本年年貢米の民家にあるもの、並びに本村蔵米に至るまで、今回の天災に罹り、村内の中に流散するもの多し。依って第一着手としてその拾集を命じ、蔵米は田野各所にこれを堆積し、日夜番人を付して之を守り、各自の年貢米を検査の上封印をなし、各所有主へ交付し、更に之をその家宅に運ばしむ。

前段既に述ぶるが如く、窮民は概ね家を流失し、日を経て之を拾集するも十に一を得る所なく、平日些少の蓄蔵ありたる者も日々業を失い、朝夕炊烟を立つること能わざる悲境に陥れり。依ってこれ等の輩を使用して散乱の俵物を拾集せしめ、朝夕炊烟を立つること能わざる悲境に陥れり。依ってこれ等の輩を使用して散乱の俵物を拾集せしめ、或は道路を開通せしめ、或は番人とし、僅かに糊口の道を与えたり。町内の道路三回の修理掃除に依って始めて旧に復するを得たり。また収集の梁柱竹木瓦類は各所に積みあげ番号を付し、後日に至り入札を以って売却し、その所得金を村民家屋の建坪に割賦して之を分配せり。然れども斯くの如く整理するまで幾多の日子を費したりと知るべし。

被害の概略

一、家屋流失	125軒
一、家屋全壊	10軒
一、家屋半壊	46軒
一、汐入大小破損の家屋	158軒
計	339軒
一、流死人	30人 (男12、女18)
	(尚、他に子ども 6人が死亡)
	(おわり)

語り部サークル結成10年記念講演会

「稲むらの火の館」がいつもお世話になっている語り部サークルが結成10年を経過しました。それを記念して、防災講演会が開催されます。誰でも参加できますので、出席してください。

日時 平成26年9月21日午後1時
 場所 広川町民会館2階
 講師 京都大学防災研究所 鈴木進吾先生
 広川町の地震と津波のリスク
 関西大学社会安全学部 近藤誠司先生
 地域防災を進めるために

< 稲むらの火の館の紹介 >

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano/hi/

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。